

編集後記

年度末の恒例となった『ミクスト・ミュージズ』の編集作業ですが、第13号も無事に刊行することができて嬉しく思います。

今回は、増山賢治教授が退職されるに際して、論文をご執筆いただきました。また、増山教授の指導のもとで2016年度に修士論文を提出して修士号を取得した徐さんの原稿は中国から届き、巻頭を2本の論文で固めることができました。

また論文としては、井上教授による1本のほか、小林英樹名誉教授にご投稿いただきました。小林先生には音楽学研究総合ゼミで、「音楽学部の学生のための美術講座」をシリーズで行っていただいておりますが、論文としてまとめていただき感謝しています。そして、今回もまた、表紙のデザインもご担当いただきました。ありがとうございます。

研究報告として、楽器事務室の平田さんからも投稿していただきました。いつもお世話になっている平田さんのご研究を紹介できて嬉しく思います。また後半には、音楽学コース関係のさまざまな報告を掲載いたしました。

編集長の畑さんはじめ、編集スタッフのみなさん、たいへんご苦労さまでした！また、竹田印刷の三木さん、大学の事務の方々にも大変お世話になりました。どうもありがとうございました。M.Y.

今年度もミクスト・ミュージズを無事に刊行できましたことを大変嬉しく思います。編集長を務めさせていただき、良い経験となりました。ご寄稿下さった執筆者の皆様、ご協力くださった皆様に、心から感謝申し上げます。

今年度退職される増山先生には学部時代からご指導いただき、大変お世話になりました。増山先生には、音楽学者が実践的に学ぶことがどれほど重要かということを教わりました。本当にどうもありがとうございました。Y.H.

今年も無事にミクスト・ミュージズを刊行できたことを、大変喜ばしく思います。今号は増山先生の退職記念号ということで、このような記念すべき特別号の編集に携わることができて光栄です。ご寄稿いただいた先生方や、編集長の畑さんをはじめ、今回も多くの方にお世話になりました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。M.Y.

昨年に引き続き、ミクストミュージズの編集作業に携わらせていただき光栄に思います。僅かながらの力にすぎませんが、編集長をはじめ編集委員の皆様のお役に立てていると幸いです。ご寄稿くださった先生方にも、この場をお借りして御礼申し上げます。R.K